サハリン事務所現地レポート

２０１８年１１月

（件名）第２回「日露文化・芸術フェスティバル」について　　　報告者：主査　阿部　大祐

　１０月２６日から２８日まで第２回「日露文化・芸術フェスティバル」が札幌市で開催され、ロシア側訪問団に同行したので報告する。本件は、北海道・サハリン州経済友好提携２０周年を記念し両地域で文化行事を開催することで合意されたが、サハリンでの行事は、９月６日未明に起きた胆振東部地震により開催が中止となったものである。今回は、サハリン州からサハリン芸術カレッジなど青少年を中心とする２４名、また、モスクワから著名な音楽家のイーゴリ・ブットマン氏率いるジャズ・グループ１１名を招へいした。

　西区のイオンモール札幌発寒店のイベント会場では、多くの買い物客らが足を止めロシア文化に触れ盛況を博し、また、９月のサハリンのフェスティバルに参加する予定であった北海道側参加者の演奏と公演も行われた。西区の生涯学習センター「ちえりあ」でのジャズ・コンサートでは、ブットマン氏らがハイレベルな公演を行い、観客を沸かせた。翌日には、ブットマン氏による中学生対象の公開レッスンが行われ、巨匠の前で未来のジャズ・ミュージシャンが演奏をして指導を受けた。

　このような大きなイベントの事前や現場での調整には、専門性が必要でありとロシア側との見解の相違による困難も多い。しかし、これらを通じて、ロシア人の考え方に触れ異文化を理解し、また、共に一つの感動を作り上げることができるおもしろい仕事とも言える。「国際交流」という一見すると華やかな舞台の裏で、準備に携わる職員とロシア人の間にもお互いの立場を尊重し理解しあうという交流が必要となることを感じた。

会場の様子

北海道側公演「ダンススタジオ舞人」

サハリン側参加者

（件名）ロシア極東官民ミッションへの参加について　　　報告者：所長　佐藤　知至

　官公庁、商社、水産関連企業等からなるミッション団 28 名が、10 月 29 日から 11 月２日の日程で沿海地方及びサハリン州を訪問し、うちサハリン日程の２日間に参加したので報告する。

　当該ミッション団は、日露の「８項目の協力プラン」を推進するため農水省が設置した「ロシア極東等農林水産業プラットフォーム」の一環として実施されたもので、今回は水産関連分野が主な対象であった。

　サハリンにおける初日は、コルサコフにある「Yuzhny Terminal」と「Tunaicha」（鮭等の孵化施設）を訪問。「Yuzhny Terminal」は、コルサコフ港において船舶修理や水産物荷下ろしを行っており、また、港で計画されている複合的漁業施設の計画を担っている企業。法律上の問題で（当該場所で取引所が規定されていない）プロジェクトは遅滞しているが、現在中国企業との間で投資について協議が進んでおり、投資の対象は、養殖・加工・物流インフラなど広範に及ぶとのこと。また、サハリンの水産関連会社を組織化し、オペレーターとして外国企業からの要望に対応する体制づくりも検討しているとのことだった。

　２日目は、サハリン州政府との「官民円卓会議」、「SakhNIRO」訪問、「Intaroe」（水産加工会社）訪問、総領事館でのブリーフィングが主な内容。官民円卓会議には州政府のほかに漁業組合も出席、ゴルニチヌイ水産庁長官から州の水産資源等についてプレゼンが行われたのち、活発な意見交換が行われた。また、研究施設である「SakhNIRO」では、サハリン水域おける各水産物の資源量や利用率について貴重な情報を得ることができた。

　水産関連は、法制度や漁業交渉、割り当てなど考慮すべき事項も多いが、両地域の交流に資する案件について、引き続き情報集と道内団体等への支援を行っていく。

Tunaich

サハリン州（円卓会議）

Intaroe